

竹島圖説

完

140

庫	文	閣	内
五	函	九	一
架	冊	號	類

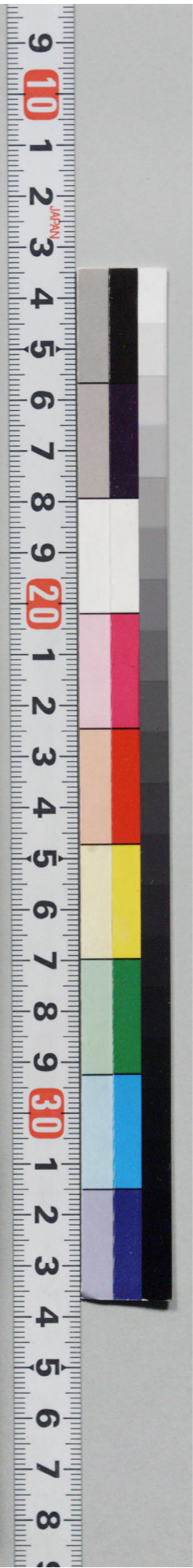
和書類  
二第和全

二	九	二	九
三	七	八	
一	三	七	八
冊	架	函	號

和書門類

地三八

内閣文庫	
番號	和 29298
冊數	1 ( 1 )
函號	175 140



此説恐ハ是ナラン

隱岐国松島ノ西島松島ノ一小属島ナリト做スヨリ海上

道規ミナリ凡四十里許北方一島アリ名テ竹島ト曰此

島日本ニ接シ朝鮮竹島ヨリ朝鮮へ海上道規四十

渡島セル一老吏ニ誥問セラレシ其答ニ伯州会

見郡濱野目三柳村ヨリ隱岐ノ後島へ三十五里

アリ是遠見ノ考ヲ以テ竹島ヨリ朝鮮山ヲ見ハ少

朝鮮山ト云ルハ恐ハ朝隣ニ地形三角ニメ周圀

凡十五里許是十五里ト云モ只其大既ヲ云フミ撐

ラ且竹木最繁茂人ヲメ敢テ入可産物最多キ一

奇島ナリ島ノ東南辺ヲ捻テ古大坂浦ト曰此辺ハ

衰

此説恐は是ならん

隠岐国松島西島（松島の一小属島なり土俗呼ぶ次島と做す）より海上道規凡そ四十里許北方に一島あり名を竹島と曰ふ此の島日本に接し朝鮮（竹島より朝鮮へ海上道規四十里許と云此説は享保九年昔屢渡島せる一老叟に詰問せられしき其答に伯州会見郡濱野目三柳村より隠岐の後島へ三十五六里あり是遠見の考を以て竹島より朝鮮山を見は少く遠く見ゆれば凡四十里許かと云り ○謙按に那朝鮮山と云ゆれば恐は朝鮮の爵陵山ならん に隣し地形三角に△周囲凡そ十五里許り（是十五里と云も只其大概を云のみ）

樟（撐）夫の言に東西特に長衷果の甚広知へからす且竹木最も繁茂人を△敢て入可らしめさるの地往々少からすと）産物尤も多き一奇島なり島の東南辺を総て古大坂浦と曰く此の辺は：

【訳】

この説が恐らく正しいのであろう

「隠岐国松島の西島（松島の一小属島で、地元の人々は次島としている）から海上の道のり約四十里（160 km）北方に竹島という名の島が一つある。その名を竹島という。この島は日本に接し、朝鮮（竹島から朝鮮へは海上の距離40里ほどという。この説は享保9年、昔しばしば渡島したという一老人に質問した際の答えに、伯耆の国會見郡濱野目三柳村から隠岐の島後へは35, 9里あり、これを遠くに眺めた際のことを考えると竹島から朝鮮山を見るとそれより少し遠く見えるので、40里ほどになるのではないかといったことからである。著者が思うに、この朝鮮山というのはおそらく朝鮮の鬱陵島だろう。）に隣接し地形は三角で周囲はおよそ15里ほどである。（この15里というのも大まかなものという）船頭のいうには東西が特に長く、広さは分らないが竹木が繁茂しており人が敢えて入ることが出来ないような土地が少なくない。産物が最も多い奇島である。島の東南の浜辺を総称して古大坂浦といい、この辺りは：